

今月のことば

死んだあとも
深く関わった
多くの人の
中に
受けとめられながら
その人の存在は
生きていくのです
宮城巖

九州大谷短期大学名誉教授で真宗の僧侶、宮城巖さんの言葉です。大切な方の存在が私たちの中に生きていく。その姿や、言葉や景色が私に、はたらかかけてくれているのを感じます。

おはなし会
おがいもの

ペットとの暮らしを考える

まるのし

2025 主催:まるの会 協力:徳泉寺

10 / 13 (月)

10:00-15:00
徳泉寺 入場無料
仙台市宮城野区榴岡3-10-3
図あり

10:20~
住職法話
いのちみな
生きらるべし

お子さま
大歓迎

出入自由

家族みんなで楽しむ

今年もやります「まるの会」のマルシェ。ペットのことを考えたりお買い物をしたり。詳しくは徳泉寺のホームページでお知らせします。ぜひお越しください

十月同朋会 (第二土曜日)
十月十一日
時 午後一時から三時半
内容 勤行 報恩講練習
法話 住職 「正信偈」より
前住職 「歎異抄」より
茶話会 (500円)
どなたでもご参加いただけます。

ほうもりのひとりごと
秋彼岸に入った途端、気温がさがり過ぎやすくなりました。身体も動きやすく、気持ちも前向きになったように感じます。こうなってみて初めて、いかに夏の気温が異常だったのか、息がし辛い中で生活していたのかと気づかされます。気温だけでなく生き辛い状況になっているとき、当事者が気づくのは難しいのだろうと考えたりしました

前住職法話 「善人なおもて往生をとぐ いわんや悪人をや」
あまりにも有名なこの言葉ですが、大変誤解されやすい言葉でもあります。これはこの「善人」「悪人」の捉えが宗教的な捉えと一般的な捉えで隔たりがあるためだと思われれます。世間的には「善人」とは道徳的な人、「悪人」とは品行の悪い人だと考えられます。親鸞聖人のおっしゃる「善人」は自力作善の人。自分の力で往生できると考える人のことです。それに対して「悪人」とは他力を頼み奉る人。自分の力では往生できないと自覚している人のことです。この、自分ではできない「悪人」という自覚のところに信心があるのです。

住職法話 「阿弥陀仏の光明」 正信偈より

光に対応するものは何でしょうか。陰だとか闇だとかそういうものだと思いますよね。しかし、「阿弥陀の光」に対応するのは「私」なのです。照らすのが「阿弥陀の光」。そして照らされるのが「私」。正信偈には様々な光の形が書かれています。私たちはすでにこの光に照らされ、この光の輝きを現に蒙って(こうむって)いるのです。夏のこどものつどいはこの同朋会に参加されている方々にご助力いただいて、昔の子どもの様子を聞かせていただきました。私たちは私たちの知らない世界を聞くことでもう一度自分の世界を見ることが出来ます。この光の形はそのことを教えてくれます。

九月同朋会より